

高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゅういき

高梁川流域の

でんとうてき

ぎょうじ

げいのう

伝統的な行事と芸能

せんざいらく(たましまちく・つらじまちく)

千歳楽(玉島地区・連島地区)

新高総早
見梁社島
市市市町

倉敷市

矢井浅里笠
掛原口庄岡
町市市町市



かんけい ばしょ
関係のある場所

—



ぎょうじ

この行事について

せんざいらく ないぶ たてお たいこ お ふとん かさ やね せとうちえん ふんぶ
「千歳楽」とは、内部に縦置きの太鼓を置き、布団を重ねてその屋根とした、瀬戸内一円に分布
する山車の一種で、岡山県南部での共通する呼称です。布団の数は、1枚から9枚までさまざま
で、狭間には、彫刻があるものもあります。千歳楽の特徴は、太鼓と布団です。布団は、元々庶民
には簡単に手に入るものでなく、高価なものでした。このため、人々が憧れた布団が神の供回り
として使われたと伝えられています。

せんざいらく ふとんぶふん たかかご かみ きんねん はっほう せい
千歳楽の布団部分は、もともとは竹箆に紙をはったものでしたが、近年は、発砲スチロール製
が一般的です。布団は、玉島では5枚布団が一般的であり、その他の地区では3枚布団の割合が
多いようです。道中で歌われる歌としては、主として「伊勢唄」・「千歳楽の唄」の2種が歌われる
ことが多く、「伊勢唄」は、江戸時代後期のお伊勢参りの流行にともなって全国各地に広まった
伊勢音頭の一種とされています。

せんざいらく うた つらじまし うら やくしん いせうた つく つた
「千歳楽の唄」は、連島西の浦の薬師院にいた鶴崎検校が「伊勢唄」をくずして作ったものと伝
えられ、水島を中心として、西は浅口市一帯、東は早島周辺まで伝播しています。これらの唄を
歌いながら、歌のテンポに調和した千歳楽が町中を練り歩きます。